

シリーズ 三郷学

〈三郷学の視点⑳〉

三郷学の視点

12. 見え消しの議論でスピード感のあるまちづくり

三郷学は、三郷の資源を改めて確認し、三郷の歩むべき方向性を考え、行動するものです。

そのとき、複雑多様化する現在の地域社会において



は、さまざまな主体(市民、団体、企業、市など)による予測と調整のための議論が必要となります。議論は、計画づくりや事業実施の際にも必要です。そして、この議論には、見え消しが有効です。

見え消しの方法をとることにより、今までの議論の過程が可視化されます。どのような議論を経て結論に至ったのかがわかり、気づきが生まれると同時に、議論の後戻りや混乱を減少させることもできます。そのため、地域の課題の発見から政策の立案・決定・実行・評価という過程が円滑に運びます。この過程が円滑に運ぶことで、政策の遅延(タイム・ラグ)を防ぐことができます。

見え消しの手法で、じっくりと議論することが、スピード感があり三郷の地域にふさわしいまちづくりの実践につながります。見え消しの手法を使った議論の代表的なものの一つに、ワークショップがあります。